

魅力ある広野町 を目指して

Interview

地域コミュニティ形成実践講座では、地域資源を活性化にどう結び付けるか具体的な話し合いが進められています。

そこで、地域コミュニティ形成実践講座に参加している二人の方からお話を伺いました。



鈴木 すみさん
(下浅見川)

まちに対する想いが一番

すでに広野町に帰ってきている人、まだ戻っていない人、そして広野町を訪れる人達が交流できるカフェが駅の近くにあるといいと思います。広野町に戻ってきてみると、隣近所の人がいなく、町民の方もそういった交流出来る場所を求めていると思います。

これから復興を果たしていくにあたって一番大切なのは、まちに対する想いだと思っています。



馬上 義幸さん
(広洋台)

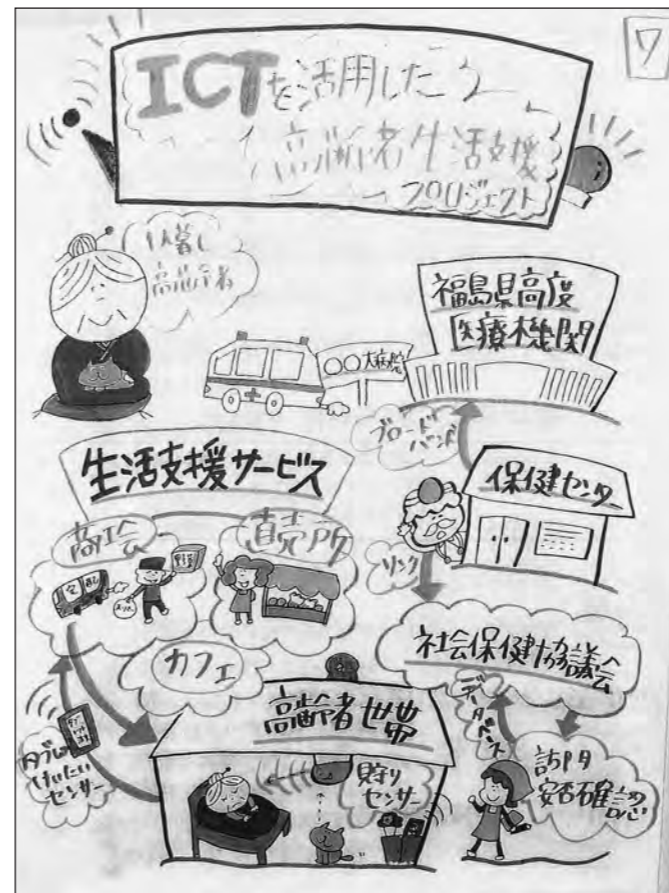
自らがやっという気持

ひろのオリーブ村会長の佐藤賢治さんがいわきの知人の紹介で始めたひろのオリーブ村プロジェクトも現在20名まで増えました。そもそもこのオリーブプロジェクトは、農業の6次産業化の下支えをしたいとの想いから始めました。このオリーブが何年後、何十年後かに町の特産品になってそこから雇用が生まれればうれしいです。

これから町が復興を果たしていくためには、町民自らがやっという気持が大切だと思います。



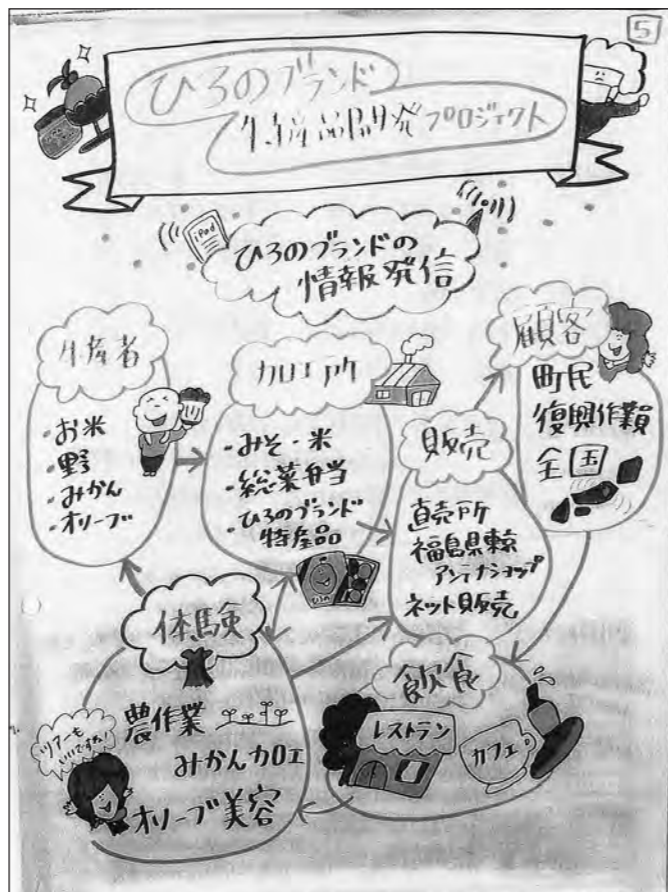
③ひろのみらいカフェプロジェクト



②ICTを活用した高齢者支援サービス



①ひろのオリーブ村プロジェクト



④ひろのブランド特産品開発プロジェクト

住民自らが考える

地域コミュニティ形成実践講座では、広野町における地域コミュニティの再形成、生活を支える商業の復興、雇用の創出・拡大などの課題について、どのようにそれらを作っていくかを「町民のみなさんで考えて計画しよう」という目的で今年度10回に渡り開催されました。

1月31日に行われた発表会では、町民のみなさんが考えた4つ計画が示されましたのでお知らせします。

どうすればふるさとが元気になるか、町民のみなさんが協力してアイデアを出し合った計画となっています。

10回に渡る講座には、多くの町民のみなさんに参加していただきました。行政と町民のみなさんが力を合わせ、それぞれの分野で力を発揮すること―それが魅力あるふるさと復興への第一歩になるはずです。

